

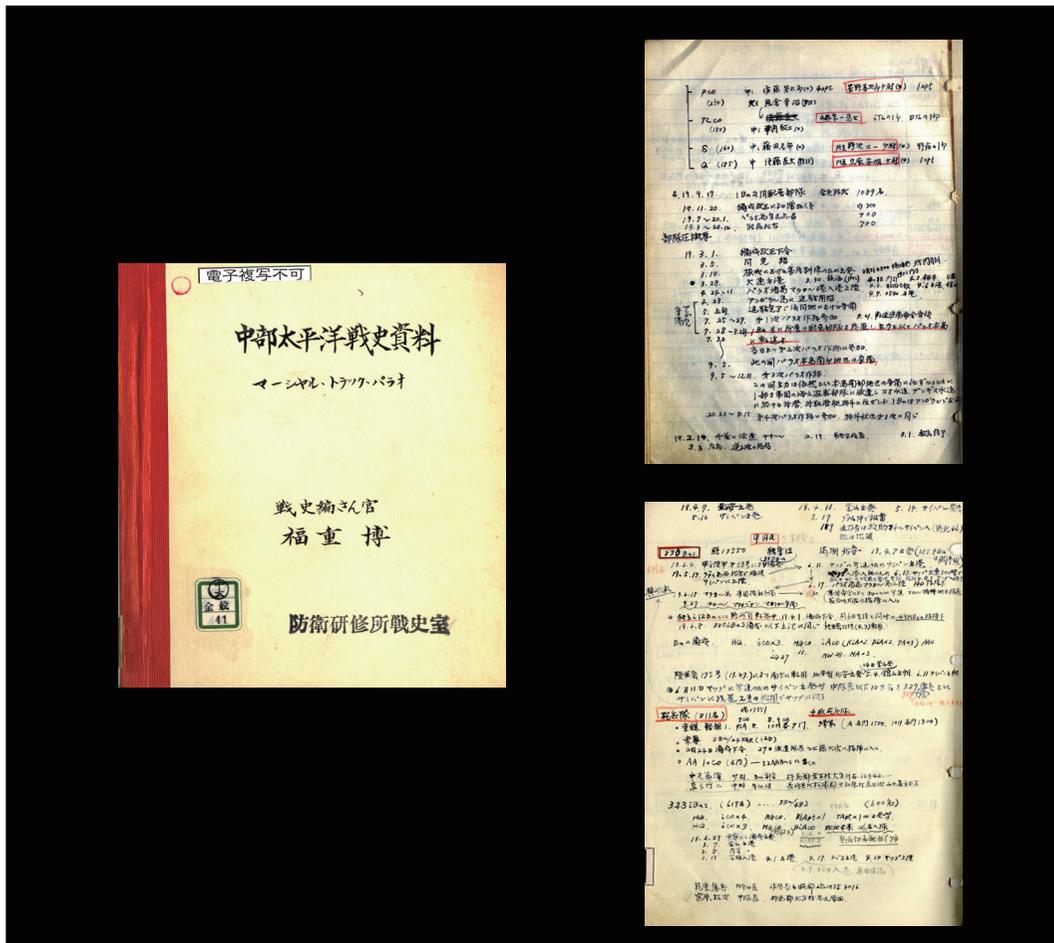
## 戦史叢書刊行完結 30 周年 史料紹介



### 西浦進（初代戦史室長）の「東条英機アルバム」

昭和 30 年 10 月、戦史室が陸上自衛隊幹部学校内（小平）に創設され、初代室長として西浦進（陸士 34 期）が就任した。旧軍時代に、陸軍省軍事課予算班長、陸軍大臣秘書官、軍事課長、支那派遣軍高級参謀等の要職を歴任した西浦進は、その経験を生かして、15 年の長きにわたり「戦史叢書」の刊行に心血を注いだが、昭和 45 年 11 月、業半ばにして斃れた。

「東条英機アルバム」は、西浦が陸軍大臣秘書官当時（大佐）に作成したとみられるもので、西浦の寄贈による。2 冊のアルバムに、昭和 16 年 10 月から昭和 17 年 2 月までの間の東条英機の公務の写真 184 枚が収められている。（登録番号：中央一般写真-12、13）



## 福重博（戦史編さん官）の「中部太平洋戦史資料」

「戦史叢書」の編さんに関わった戦史編さん官と調査員の数は134名にのぼったが、本号寄稿者の福重博（陸士55期）はその一人である。戦後20年余を過ぎての「戦史叢書」刊行の前に、資料の散逸や年月の空白等の難問が山積していたが、戦史編さん官たちは、史料の収集及び歴戦者からの聴取により、戦争の実態を克明に調査して史実の解明に努めた。

福重博の「中部太平洋戦史資料」は、そうした戦史編さん官たちの「戦史叢書」刊行に対する並々ならぬ熱意と努力を窺い知ることのできる資料である。（登録番号：中太一全般-31、32、39、41）なお、防衛研究所図書館史料室は、他の戦史編さん官の聴取・収集資料も所蔵している。



## 石碑「戦史室跡」の碑文

市ヶ谷台のメモリアルゾーンの自衛隊殉職者慰霊碑と兜松との間に、「戦史室跡」の石碑がある。この石碑は、「戦史叢書」全102巻が市ヶ谷で編さんされたことを記念して、戦史部（室）に勤務した有志により、昭和54年12月に建てられた。

戦史室は、昭和35年5月に市ヶ谷に移転し、昭和40年11月からは公刊に向けた「戦史叢書」の編さんに取り組み、昭和55年1月に最終巻の第102巻が刊行されようとしていた。また、戦史室は昭和51年5月に戦史部に改編され、戦史部は昭和54年12月の目黒への移転を目前に控えていた。本号90頁には元戦史編さん官の一人の感慨が述べられているが、目黒への移転及び「戦史叢書」刊行完結をまじかに控えた有志たちの、戦史室時代の終焉と次なる戦史部時代の新たなる開幕への思いが、この碑文に刻まれている。